

(講座) 分子創薬科学                   (研究室) 細胞制御学  
(氏名) 河野通明                   (職名) 教授

### 【研究テーマ】

1. MAP キナーゼ系の機能亢進と細胞がん化の相関
2. MAP キナーゼ系の機能性御を指標とした新規抗癌剤の開発
3. 骨形成因子の生理機能、及び作用発現シグナル系の解析
4. 微小管機能阻害によるアポトーシス誘導機構の解明

### 【論文発表】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. Kataoka, T., Watanabe, S., Mori, E., Kadomoto, R., Tanimura, S. & Kohno, M. Synthesis and structure-activity relationships of thioflavone derivatives as specific inhibitors of the ERK-MAP kinase signaling pathway. *Bioorg. Med. Chem.* **12**, 2397-2407, 2004.

#### B 邦文

##### (B-b) 総説

1. 矢守隆夫、安藤俊夫、上原至雅、小野真弓、河野通明、済木育夫、内藤幹彦、早川洋一、鶴尾 隆、吉田 稔、杉本芳一、馬島哲夫 「わが国における制がん候補物質のスクリーニング成績・第9報」 癌と化学療法、31 卷（増刊 I）、1-150 頁、2004 年。
2. 河野通明、渡邊一石、谷村 進 「チューブリン阻害活性の検定」 癌と化学療法、31 卷、501-506 頁、2004 年。
3. 谷村 進、河野通明 「Heat shock protein 70 結合タンパク質 (HspBP1) のアポトーシス誘導促進効果」 日本臨床、62 卷、1291-1296 頁、2004 年。
4. 河野通明 「ERK-MAP キナーゼカスケードを標的とした癌治療」 現代医療、36 卷、1401-1410 頁、2004 年。

### 【学会発表】

##### (B-b) 一般講演

1. 平野愛、川畑拓誠、谷村進、河野通明：抗がん剤による Hsp70 Binding Protein 1 (HspBP1) の発現亢進とその分子機構、第 124 回日本薬学会年会、大阪 (2004)
2. 谷村進、平野愛、河野通明：HspBP1 (Hsp70/Hsc70 阻害タンパク) の発現量調節機構、第 8 年会がん分子標的治療研究会、鹿児島 (2004)
3. 川畑拓誠、渡邊一石、谷村進、河野通明：MEK 阻害剤とチューブリン重合阻害剤の併用による腫瘍萎縮効果、第 8 年会がん分子標的治療研究会、鹿児島 (2004)
4. 尾崎恵一、岸川二葉、河野通明：ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤との併用によるヒト卵巣癌細胞のシスプラチン耐性克服、第 63 回日本癌学会総会、福岡 (2004)
5. 藤原雄介、谷村進、河野通明：PI3K 阻害剤と微小管重合阻害剤の併用による細胞死誘

導効果増強の分子機構、第 63 回日本癌学会総会、福岡 (2004)

6. 川田敬、藤原雄介、谷村進、河野通明：PI3 キナーゼ/Akt 経路遮断剤と Adriamycin の併用による細胞死誘導の増強、第 63 回日本癌学会総会、福岡 (2004)
7. 尾崎恵一、宮崎沙月、河野通明：Sprouty1-Sprouty4 共発現による FGF シグナル抑制効果の増強とそのメカニズムについて、第 27 回日本分子生物学会年会、神戸 (2004)
8. 簗田亜衣、岸川二葉、尾崎恵一、河野通明：ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤との併用による各種抗がん剤の作用増強、第 21 回日本薬学会九州支部大会、長崎 (2004)
9. 川田敬、藤原雄介、谷村進、尾崎恵一、河野通明：Akt 経路遮断剤との併用による Doxorubicin の抗がん作用増強、第 21 回日本薬学会九州支部大会、長崎 (2004)
10. 藤城修平、小村大輔、谷村進、河野通明：ERK-MAP キナーゼは RhoA 特異的グアニンヌクレオチド交換因子 GEF-H1 をリン酸化する、第 21 回日本薬学会九州支部大会、長崎 (2004)
11. 平野愛、谷村進、河野通明：Heat shock protein 70 結合タンパク質 (HspBP1) 過剰発現による抗がん剤のアポトーシス誘導増強とその分子機構、第 21 回日本薬学会九州支部大会、長崎 (2004)
12. 黒川貴浩、谷村進、林利光、河野通明：Acacetin と Luteolin は Akt が恒常的に活性化している癌細胞の増殖を抑制する、第 21 回日本薬学会九州支部大会、長崎 (2004)
13. 田村理、服部雄飛、村上啓寿、谷村進、河野通明：南米薬用植物由来の非 NES アンタゴニスト作用 MEK 核外移行阻害物質、第 51 回日本生薬学会ん宴会、神戸 (2004)
14. 田村理、服部雄飛、村上啓寿、谷村進、河野通明：薬用植物由来の非 NES アンタゴニスト作用による MEK 核外移行阻害天然物の探索、第 23 回メディシナルケミストリーシンポジウム、つくば (2004)

### 【研究費取得状況】

1. MAP キナーゼカスケードを構成するシグナル分子を標的とした細胞増殖阻害物質の検索；文部科学省科学研究費・特定領域研究
2. 多様な細胞機能の制御における MAP キナーゼ系の役割；文部科学省科学研究費・基盤研究 (B)

### 【学会役員等】

1. 日本生化学会、評議員
2. がん分子標的治療研究会、世話人
3. 日本薬学会、九州支部支部長

### 【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	59 編	(邦文)	0 編
総説 (欧文)	1 編	(邦文)	22 編
著書 (欧文)	2 編	(邦文)	5 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	5 編

特許

2 件